

1 事業名等(Plan 1)

事業名	屋根遮熱塗装補助事業				
所属名	基盤整備部 都市整備課 まちづくりグループ				
第七次総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	分野	6 環境・衛生	基本施策 1 快適に暮らせる環境を整備する
予算科目	2	1	8	環境政策	費 21820
					屋根遮熱塗装推進
					事業
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市屋根遮熱塗装推進事業補助金交付要綱				
事業の実施主体	○ 市 市以外→				
事業の実施方法	直営 指定管理 業務委託 ○ 団体等補助 その他→				

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	鋼板屋根を使用している住宅、事務所、倉庫、コミュニティー施設の所有者または使用者	受益者数	- 人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	屋根に遮熱塗装を施すことにより、屋根の蓄熱を抑制し室内への還流熱を抑制することにより、省エネルギー化による気球温暖化対策の推進と低炭素社会の構築を図る。		
概要	事業の実施手法、手順	一定基準以上の反射率を有する塗料により屋根の塗装を行った工事に対し、経費の一部を補助する。		
概要	事業始期・終期	始期: 21 年度から	終期: 年度まで	設定なし ○
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 遮熱効果のある屋根材への吹き替えについても補助対象とする方向で検討。			

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
区分							
総合計画計画額(当初)				10,000	10,000	10,000	
総合計画計画額(計画額)				10,000	10,000	10,000	
事業費 (計画・予算・見込・決算額)	事業費		6,000	10,000			
	決算・見込		3,212				
	財	国庫支出金		0			
		決算・見込		3,212			
	源	県支出金					
		決算・見込					
	内	地方債					
		決算・見込					
	その他	受益者負担					
		決算・見込					
記	繰入						
	決算・見込						
	( )						
	一般財源		0	6,000	10,000		
	決算・見込		0	0			
※コスト行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価							
コスト	H17国勢調査	96,231 人	32,174 世帯				
指標	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %	-	-			
	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	0	33			
	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	0	100			
	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人					
	! その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)						

【成果面】

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	屋根遮熱塗装補助申請受付件数	資料・出席	屋根遮熱塗装補助申請件数	単位	件
					算出式	受付件数 / 申請件数		
	成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標	指標名	屋根遮熱塗装工事実施件数	資料・出席	屋根遮熱塗装補助申請件数	単位	件
					算出式	工事実施件数 / 申請件数		

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)		A:非常に高い	目的評価 <b>A</b>	
(現状及び判定理由)		B:高い		
省エネルギー化による地球温暖化対策として、屋根の蓄熱を抑制し室内への還流熱を抑える屋根遮熱塗装の普及は低炭素社会の構築に寄与するとともに、「すみよさ」のあるまちづくりのためには重要な施策である。		C:低い		
		D:非常に低い		
②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)		項目 ②コスト面		
該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)		増加	維持	減少
減少	維持	1	増加	
(判定理由)		1件当たりの補助限度額は当初(H21)から変更なし 申請件数の増加により支出増		
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)		項目 ③成果面		
該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)		拡大	維持	減少
拡大	維持	1	減少	
(判定理由)		平成21年9月から実施している事業であるが、昨年に引き続き順調に申請件数を伸ばしている。		
		コスト・成果ポジション		
		<b>B</b>		
		第2水準		

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点	補助内容としては、十分であることから、更なる制度の周知を図る。
------------------------------	---------------------------------

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)	現状維持 ■ 改善・継続 終期設定 休止 廃止 完了
活動の方針	制度の周知を図る 次年度の実施方針 遮熱鋼板への葺き替えに対する補助が可能か否かを検討
総合評価	コスト 中 成果 高 評価区分 II
判断の理由等	「I」の水準に向けた改善が必要 本事業は、省エネルギー化による地球温暖化の防止とともに良好な景観形成や景気対策に資するなど、費用対効果の高い事業であり、今後も継続していく必要がある。制度創設以降、実績が伸びている状況であるが、更なる制度の周知及び助成対象の拡大の検討など、多くの市民・事業者が利用できる制度として定着させる必要がある。